

# 映画「不撓不屈」とTKC

関本 秀治

人の歴史を描くとき、その人が最終的にどのような軌跡をたどったかをはっきりと見極めることが大事です。そうでないと、その人について誤った認識や評価を与えることになりかねません。

飯塚毅という人の半生・前半という意味で「」を描いた映画「不撓不屈」は、そういう類(たぐい)の物語の典型といえます。

## 「和解」し親自民に

たしかに、一九六三年にはじまった飯塚税理士とその関与先業者に対する国税当局の、不当な弾圧的調

査、検察当局による予断に満ちた捜査や飯塚事務所職員逮捕、拘置、起訴に対して、飯塚税理士は勇敢にたたかいました。それゆえに、私たちは税経新人会メンバーを中心に、全国的に

## 半生・実像は伝わったか

支援の輪を広げ、鹿沼(栃木県)の飯塚事務所を激励に訪問しました。

税経新人会とは、憲法に保障された納税者の権利を守ることを目的とする税理士の団体です。

飯塚税理士は、六五年七月の税経新人会全国協議会の結成総会に來賓として参

加し、「私の事件に際して税経新人会が寄せられた支持を心から感謝する。…自民党がかえりみないしいたげられた中小企業勤労者を職業を通じていかに救うかという祈りと確信をもって闘うつもりである」(税経新報六一号)とあいさつもしています。

しかし、その後、彼は、

させ、各選挙区ごとに自民党候補者の後援会を作らせ、その指示に従わない会員は除名するという徹底した親自民、反共路線を推進してきました。TKC全国会の方針は、〇四年十一月、飯塚氏が亡くなった後も変わっていません。

このことを証明するTKCの文書は、全国の税理士

計算センターTKC全国会を結成(七一年)、その会長に就任したころには、す

で、国税当局と「和解」し、自ら進んで税務行政に協力する姿勢に転じていま

した。自民党の進める「民商対策」としての小規模事業対策に、TKC全国会の会員をして半強制的に協力

に配布された公式のものから、極秘文書まで多数存在します。

## 権利守る立場とは

税理士事務所に電算機会計処理を持ち込むという彼の着眼は確かに先見性を持っていましたし、現在、税

理士事務所は電算機の利用

なしにはほとんど成り立たないといえます。TKC全国会はJDLや勘定奉行、エプソンなどと並んで全国の税理士事務所では、トップクラスのシェアを誇っています。TKCの「不撓不屈」で強調されているような、中小企業の営業と権利を守るという理念で運営されているとは思われません。

不撓不屈という言葉本来の意味から私たちがイメージするのは、税理士であれば、一貫して徴税権力の違法不公正なさまざまな圧力から納税者の権利を守るためにたたかい抜く姿です。この視点で見た場合、この作品は、飯塚氏の後半生にはほとんどふれておらず、その実像がわからないままに終わっています。

(せきもと ひではる・税理士、元税経新人会全国協議会理事長)